



## 夜空を彩った希望の花火

「いなわしろ花火大会ー風」を開催



夜空を彩った花火。音楽に合わせて次々と打ち上げられた

いなわしろ花火大会は8月13日、町運動公園で開かれ、約3000発の花火が夜空を鮮やかに彩りました。

東日本大震災からの復興に向け、町に新しい風を吹かせたいとの願いを込めて「風」をテーマに企画された今年の花火大会。音楽に合わせて尺玉やスターマインなどを打ち上げ、会場を訪れた大勢の観客を楽しませました。

花火の打ち上げを前に、ステージでは「それいけ！アンパンマンショー」やみちのくボンガーズのパチッコリン、ふくしま八重隊、ご当地キャラのパフォーマンスなどが繰り広げられ、訪れた人たちは多彩なステージを満喫していました。



NHK大河ドラマ「八重の桜」をきっかけに結成し、全国のイベントなどで福島県をPRしている「ふくしま八重隊」。この日はステージで軽快なダンスを披露した



ステージを楽しむ観客ら。会場には町民や帰省客、観光客など、昨年を大幅に上回る約1万3000人が訪れた



ヒデオくん、こゆりちゃんと八重たんが登場したご当地キャラのステージ

## こんなにたくさん見つけたよ

亀ヶ城公園でカブトムシ探し



「こんなにつかまえた」と一ノ瀬さん(左)、佐賀わかなさん(右)

官民協働事業を展開する亀ヶ城公園亀鶴会議の「いなわしろ自然体験4シーズンズ 夏編」は8月2日、亀ヶ城公園で開かれ、親子連れなど約50人がカブトムシ探しに取り組みました。

参加者らは、移植べらなどを使って土の中を丁寧に探り、全員がカブトムシを見つけだしました。

6匹のカブトムシをつかまえた一ノ瀬未羽さん(猪苗代小1年)は「お兄ちゃんが『5匹以上つかまえてこなかったらげんこつ』と言っていたので、それ以上で良かった」と満足そうに虫かごの中をのぞいていました。

## 東軍殉難者の御霊安らかに

戊辰戦争の激戦地母成峠で慰霊祭



慰霊碑の前で剣舞を奉納する吾妻小の児童

戊辰戦争の激戦地、母成峠の戦いで戦死した東軍殉難者の慰霊祭は8月21日、母成慰霊碑前で執り行われ、母成弔霊義会会員や殉難者の子孫など約30人が出席しました。

仏事後、母成弔霊義会の橋本彦一会長が祭文を読み上げ、前後公町長が「郷土を守るため、身命を賭けて戦い、不運にも尊い命を捧げた英霊をしのび、心からご冥福をお祈りします」と弔辞を述べました。慰霊祭後、吾妻小学校の5年生の児童18人が白虎隊の剣舞を奉納し、戦死者の霊を慰めました。

この慰霊祭は、母成弔霊義会の主催で毎年開かれています。

## 牧場に笑顔の花を咲かせよう

スマイルマークに沿ってソバの種まき



ソバの種を丁寧にまく参加者ら

「スマイルふくしま in 磐梯山牧場」は8月4日、町営磐梯山牧場で開かれました。

福島民報社などが進める「スマイルとうほくプロジェクト」の一環として行われたもので、猪苗代スポーツ少年団ソフトボール部の部員やその家族など町民約50人が参加。直径約50cmのスマイルマークに沿ってソバの種を丁寧にまきました。

作業終了後、参加者らは昼食をとり、町婦人連絡協議会の会員らが盛り付けたカレーをおいしそうにほおばっていました。

8月下旬にはソバの花が咲き、大きな笑顔の花が出現しました。





## 水質日本一の復活を目指す

長浜でクリーンアップ作戦を実施



湖岸のごみを拾い集める参加者ら

町と会津若松市、郡山市でつくる猪苗代湖環境保全推進連絡会は8月4日、猪苗代湖岸一斉クリーンアップ作戦を実施しました。

長浜では、町内の各団体やボランティア、猪苗代中の生徒など約150人が参加。清掃開始を前に、前後公町長が「皆さんの協力により猪苗代湖を水質日本一に戻していきたい」とあいさつを述べました。その後、参加者らは湖岸に打ち上げられたごみや枯れ草などを丁寧に拾い集め、湖の環境保全に貢献しました。

終了後には、県環境センターの渡辺稔調査分析課長による座学も開かれ、参加者らが猪苗代湖の水質などについて学びました。

## 町陸上競技場のシンボルに

五十嵐幸夫さんが名称石碑を寄贈



名称石碑を寄贈した五十嵐さん(右)

五十嵐石材店代表の五十嵐幸夫さん(川桁)は、このほど町運動公園陸上競技場の名称石碑を寄贈しました。

学生時代から陸上競技の選手として活躍し、現在はふくしま駅伝の猪苗代町チーム監督を務める五十嵐さんが、思い入れのある同競技場が全天候型に改修された記念にと贈呈したものです。

石碑は高さ1.4㍎、幅2.4メートル、奥行き1.2㍎で、地元の磐梯石を使用。前後町長が名称を揮毫しました。

贈呈式は8月6日、同競技場で行われ、五十嵐さんが前後町長に目録を手渡しました。

## 英霊800余柱の冥福を祈る

戦没者追悼式と慰霊祭が行われる



献花をして英霊の冥福を祈る前後町長

町戦没者追悼式は8月2日、学びいなで行われました。式には町遺族連合会会員や来賓など約170人が出席し、国歌斉唱の後、黙とうをささげ、第二次世界大戦で犠牲になった800余柱の冥福を祈りました。

前後公町長が「戦争の悲惨さを後世に伝え、平和と繁栄のため努力を続けていく」と式辞、樋山公則会津保健福祉事務所副所長、鈴木武喜町議会議長が追悼の言葉を述べた後、出席者らが献花をし、英霊を慰めました。

追悼式に続き、町遺族連合会主催の慰霊祭が開催されました。

## 壮大な演奏で聴衆を魅了

学びいなで京都大交響楽団演奏会



壮大な演奏を響かせる京都大学交響楽団

京都大学交響楽団の演奏会は8月27日、学びいなで開かれ、壮大な演奏で会場に詰めかけた465人の聴衆を魅了しました。

演奏会では「交響曲第5番『運命』」の第1楽章や「ハンガリー舞曲第5番」など10曲を披露。「逍遙の歌『紅燃ゆる』」では東中合唱部が共演し、美しいハーモニーを披露しました。

NHK全国学校音楽コンクール県大会で東中の伴奏を務めた大堀明子さん(上ノ上)は「素晴らしい音色と迫力を兼ね備えた演奏で鳥肌が立ちました。東中の生徒たちにとっても、いい機会になったと思います」と話しました。

## 鉄人たちが己の限界に挑む

猪苗代の雄大な自然を舞台に激走



496人の鉄人たちが町内を駆け抜けました

第15回うつくしまトライアスロンinあいづは8月25日、猪苗代町、磐梯町、会津若松市の1市2町を舞台に開催され、県内外から集まった496人の選手が自らの限界に挑戦しました。

レースは猪苗代湖の天神浜でのスイム(1.5㍎)、天神浜から会津大までのバイク(40㍎)、同大周辺を走るラン(10㍎)の計51.5㍎のコースで競い合いました。

猪苗代高校では、JRC委員会の生徒らを中心にボランティアとして参加。天神浜に設けられた給水所で選手らにドリンクを手渡し、声援を送りました。

## 緑化推進への誓いを新たに

県緑の少年団大会が開催される



体験交流活動でアクセサリなどを作る団員ら

第39回県緑の少年団大会は7月24日、国立磐梯青少年交流の家で開かれ、団員らが緑化推進への誓いを新たにしました。

県内9つの緑の少年団から約200人が参加したこの大会には、翁島小、緑小の緑の少年団から合わせて69人が参加。式典では、活動発表大会の表彰式が行われたほか、受賞団体の活動内容発表などが行われました。式典の最後には、翁島小緑の少年団の笠間優希さんと佐藤柚衣さんが「緑に親しみ、緑を愛します」などと誓いの言葉を述べました。式典後に行われた体験交流活動では、団員らが端材を使って木工クラフト作りを行いました。